

【学力向上フロンティアスクール用中間報告様式】

都道府県名 兵庫県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	姫路市立城陽小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
児童数	94	94	112	105	98	108	1	612	26
学級数	3	3	3	3	3	3	1	19	

研究の概要

1. 研究主題

教科担任制と協力的な学習指導を推進し、子どもをキラリと輝かそう

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・全学年算数TT
子どもの理解度に差が出やすい教科であるため。
- ・5・6年社会・理科・音楽・図工・家庭・書写等
教師の専門性を生かすため

(2) 年次ごとの計画

平成
14
年
度

テーマ

「なにごとにも集中して取り組める児童の育成」

研究の見通し

- ・なにごとにも集中して取り組むことのできる児童は、キラリとした目で活動でき、繰り返し学習や課題学習にも積極的に取り組むことができる。

研究の内容・方法

きめ細かな指導についての研修

- ・算数科を中心にした少人数指導や同室複数指導等の方法による協力的な学習指導の在り方について、授業研究を中心に研修する。
- ・個に応じた補充教材や学習プリントを作成、活用する。
- ・高学年における教科担任制を実施し、より質の高い授業を創造する。

平成
15
年
度

テーマ

「やる気と自信を持った児童の育成」

研究の見通し

- ・やる気と自信を持った児童は、キラリと輝く考えを積極的に表出することができ、学習集団の中で互いに学び合うことによって確かな学力を向上させていくことができる。

研究の内容・方法

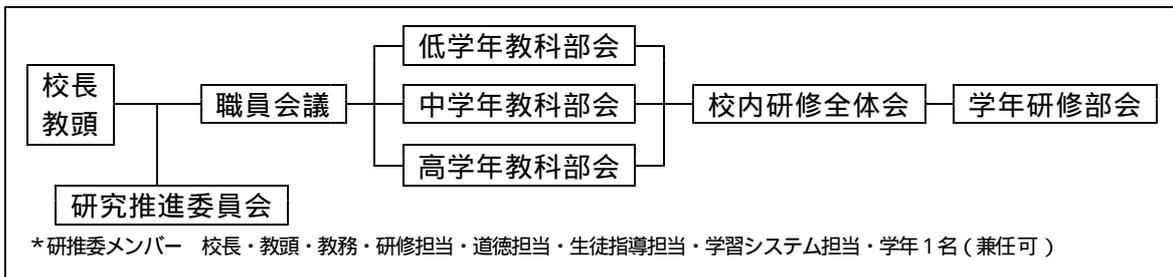
学習意欲を高める指導についての研修

- ・算数科を中心にした少人数指導や同室複数指導等の方法による協力的な学習指導の中での多様な学びについて、授業研究を中心に研修する。
- ・理解をより深めるための発展的な学習の教材を開発する。
- ・高学年における教科担任制を実施し、意欲を高める授業を工夫する。

平成
16
年度

テーマ
「自ら学ぶ習慣を身に付けた児童の育成」
研究の見通し
・自ら学ぶ習慣を身に付けた児童は、他の児童の考えからも学ぼうという積極的な学習態度と、温かく受けとめる受容的態度を合わせ持つようになり、授業の中で互いに他の児童をキラリと輝かせることができるようになる。
研究の内容・方法
コミュニケーション能力を高める指導についての研修
・算数科を中心にした少人数指導や同室複数指導等の方法による協力的な学習指導の中で子どもの積極的な関わり合いについて、授業研究を中心に研修する。
・高学年における教科担任制を実施し、主体的に学ぶ授業を工夫する。
学校の教育活動全体や家庭の学びの充実を図る。

(3) 研究推進体制



・平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

算数科を中心にした少人数指導や同室複数指導等の方法による協力的な学習指導や、高学年における教科担任制について、意識調査を実施したところ、次のような結果が出た。

まず、協力的な学習指導についての意識調査を第3学年に実施したところ、全員が協力的な学習指導の形態を支持した。また、第5学年への教科担任制の6年間の調査では

6年生では、5年生と同じような「教科担任制の一部導入と交換授業」の実施を望むか、変えてほしいかを、3学期の終わり頃に無記名で調査したアンケート

	5年生と同じがよい(教科担任制の導入)	変えてほしい
平成10年度	96%	4%
平成11年度	95%	5%
平成12年度	99%	1%
平成13年度	95%	5%
平成14年度	94%	6%
平成15年度	98%	2%

という結果であり、毎年9割を超える者が教科担任制で学習したいと解答している。その理由として、児童は、説明がよくわかり、授業に集中できると答えている。

2. 今後の課題

これまで、学力を「知の学力」「技の学力」「意の学力」の3つに分類し、児童に確かな学力をつけようと実践してきた。「知の学力」や「技の学力」は、学力調査等でも確実に向上している結果が出ている。しかし、すべてを学力調査で判断することはなかなか困難である。「意の学力」の向上については、教師の観察や児童へのアンケートが中心にならざるを得ないが、こうした目に見えない学力の向上を把握するためのより具体的な評価規準を今後も研究していく必要がある。

